

自由に作ると見えてくる～手作り木琴ワークショップ

つうざき むつみ
通崎 睦美

数

年前から、木琴作りのワークショップを行っている。

市にて「特産品である竹炭を使って、子どもたちと木琴を作れないだろうか」と持ちかけられたことだ。

当初は、竹炭片を並べて叩いて楽しむなど、単なる「子どもだまし」ではないかと気乗りがしなかったのだが、楽器として成立させる過程を模索するうちに「子ども泣かせ」の部分を含んだワークショッププランが出来上がった。その後、竹炭ではなく加工しやすい木材を使い、美術作家の面々と組んで、かなり本格的なものを作っている。

このワークショップ最高の山場は、鍵盤の製作、すなわち「調律」である。

一人に一・八メートルの材を与え、自由に切り出し、鍵盤を作ってもらう。説明は

「短くすると音が高くなります。思ったより高くなった場合、裏面を削ると音は下がります」それだけ。実際のところ、同じ長さにしても、木の個性によって音程が異なるので、マニュアルの作りようもないのだ。参加者は、のこぎり片手に大奮闘。長さが一センチ違えば音は大幅に変わる。ヤスリをかけるだけでも音程が変化する。なかなか一筋縄ではないだけに、みんな「音」を作り出すという行為に夢中になる。

ここでは、各自、オリジナルの音階を作ることが、一つのテーマでもある。世界各地にはそれぞれの地域に根ざした音階がある。だから、西洋音楽で標準的に使われる長音階（ドレミファソラシ）にこだわらず、今日はあなた自身が気に入った音階の木琴をつくってみましょう、というわけだ。

最初に、五音階（ドレファソラ）で作られたアフリカの木琴・バラフォン、私の作った琉球音階（ドミファソシ）ヨナ抜き音階（ドレミソラ）それらに加え、とんちんかん音階の木琴などを聴き比べてもらう。

この段階では、断然「アフリカ」や「とんちんかん」の人氣が高いのだが、いざ自分が作るとなると、多くの人が「長音階」に取りかかるのは、おもしろい。

ワークショップの最後は、完成品のお披露目をし、合奏で締めくくる。完璧に調律された「長音階」には皆から感嘆の声がある。しかし、絶妙に調整された「とんちんかん音階」には、感嘆とはひと味違う、ある種の羨望のまなざしが集まる。数時間で作り上げる手作り木琴の中にも、人生観が見えるよううで、おもしろい。

1 エッセイ 世界へ●世界から
自由に作ると見えてくる～手作り木琴ワークショップ
通崎 睦美

2 みんぱくインタビュー
辻 信一
「ゆっくり」生きること

8 モノグラフ
水源を訪ね、異界を知る
吉田 裕彦

10 地球ミュージアム紀行
愛媛県西条市「水の歴史館」
人と水をつなぐバーチャルミュージアム
佐々木 和乙

11 表紙モノ語り
先住民の思いを刻むトーテムポール
岸上 伸啓

12 みんぱくインフォメーション

14 万国 津々浦々
湾岸ワンダーランド
アブダビのアラビアンナイト国際会議に参加して
山中 由里子

15 時論 新論 理想論
ムービング・イメージ、
それは誰の視線によるものなのか？
岩谷 洋史

16 多文化をささえる人びと
「チョーデー」ってどんなところ？
—東京にある朝鮮大学校スケッチ—
宋 実成

18 生きもの博物誌
春の訪れを告げるはえ縄漁
〈カルーガ〉
佐々木 史郎

20 歳時世相編
セマーナ・サンタ
聖週間だ、盗掘へ行こう！
関 雄二

22 フィールドで考える
入試合格者を輩出させる水流
兼重 努

24 みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記

マリンバ奏者。1967年京都市生まれ。1992年京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。2005年、往年の名木琴奏者平岡養一氏（1907-1981）の愛器を譲り受け、木琴の新たな可能性を探る活動を始める。CDに『Mxピアソラ』『1935』他。一方、アンティーク着物コレクターとして、ゆかたブランドのプロデュースやエッセイ執筆も手がける。